

町民意識調査結果

21世紀の三隅町をどういう方向に進めていくか、町では基本構想策定に向けて作業を進めています。基本構想には、この意識調査結果も重要な事項として反映されます。それでは、最後の結果報告をいたします。

Q 山林を開発したりすることが自由にできなくなることについて

自然保護を基本にすべき 52%

保全は必要だ 26%

開発を進めるべきだ 6%

開発は構わない 4%

その他 1%

- ・「自然保護を基本とすべき」が52%を占め、「保全は必要だ」の26%を合わせると約8割が山林の自然は保護することを基本とするという考えを持っている。
- ・三隅上地区では「保全は必要だ」とする意向が、三隅下地区では、「自然保護を基本とすべき」とする意向がそれぞれ強くみられる。

Q 市町の枠を越えた広域での取り組みの推進について

無駄な事業をなくし効率化を図る 55%

市町の枠を超えて公共施設を利用できるようにする 21%

市町の合併を進める 6%

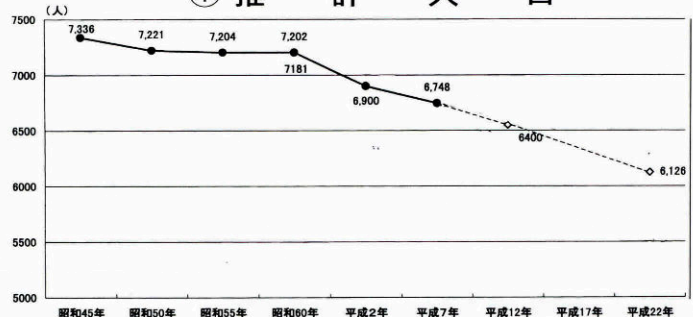
共同で重点事業に取り組む 5%

その他 1%

- ・「無駄な事業をなくし効率化を図る」が55%を占めており、効率的に事業を進めることを、先ず希望している。
- ・「市町の合併を進める」は6%にとどまった。
- ・三隅中地区では、特に「無駄な事業をなくし効率化を図る」とする意見が多い。

右のグラフ①は、三隅町の10年後の人口を、コーホート法により推計したものです。人口は減少傾向にあります。一方、グラフ②は、10年後の世帯数を推計したもので、増加傾向にあります。この結果は、相反するように見えますが、2つのグラフを合わせて考えると、10年後には一世帯当たり平均約2・7人となり、核家族化、少子化、高齢者世帯の増加等が推測できます。これからの少子・高齢社会に対応するためには、住宅、福祉、交通、雇用など、また高度情報化、環境問題、広域の連携などさまざまな分野で対策が必要になります。そして、何より必要なのは住民の方々のまちづくりへの参加です。

① 推 計 人 口



② 世 帯 数 推 計

